

ジョン・サクソン  
JOHN SAXON

エリザベス・ターナー  
ELIZABETH TURNER

トニー・キング  
TONY KING

製作 マウリツィオ・アマーティ  
MAURIZIO AMATI  
ホセ・ルイス・サルセド  
JOSE LUIS SALSEDO

監督 アンソニー・M・ドーソン  
ANTHONY M. DAWSON

撮影 フェルナンド・アリバス  
FERNANDO ARRIBAS

“一度喰ったら忘れられない”

血に渴き、生肉に飢えた

ベトナム帰りのゾンビ兵士が

いま、カリフォルニアを汚染する!

テクニカラー  
TECHNICOLOR

イタリア映画  
CANNIBAL APOCALYPSE

日本ヘラルド映画 Herald  
NIPPON HERALD FILMS, INC.



# 地獄の謝肉祭

## 謝肉祭とは

キリストが死後三日めに復活したことを記念する復活祭（別称イースター）の前40日間、断食や懺悔を行う期間を四旬節という。その禁欲期間に入る前三日ないし一週間、肉のありがたさを感謝しにぎやかに祝う行事を謝肉祭といい、カーニバルとも呼ぶ。

カラー作品/日本ヘラルド映画

Herald

CANNIBAL  
APOCALYPSE

全ては、うす暗い  
ジャングルから 始まった！

ベトナムの奥深いジャングル。ベトコンの捕虜となったチャーリーとトミーは飢えと空腹から、負傷したベトコン女性の肉に喰らいついていた。腹をひき裂き、内臓をむき出し食い、またたくまに女の体はくずれ白骨がむき出しになった。彼らを救おうと手を差し伸べた。

ベトナムの戦場の悪夢がよみがえつて、人肉のとりことなった復員兵たちは、次々と人間を襲った。しかもこのカニバリズムは「伝染」するのだ。襲われた人間も食人鬼と化し、街には生の人肉を求める獣人たちがあふれた。看護婦のヘレンもその一人だった。傷の手当を受けていた彼女は、突然、医師の顔に唇を近づけた。張り裂けんばかりの悲鳴を上げ、その場に倒れこむ医師。ヘレンは彼の顔の上に、血まみれのレバーのようなものを吐き出した。何と、それは彼の舌だった。



豊満な乳房に喰いつく食人鬼

チャーリーとトミーは復員後しばらく精神病院に入院していたが、チャーリーにようやく外出許可が出た。映画館に足を運んだ。すると前の席では、アベックがいちゃついているではないか。むき出しになった豊満な乳房。チャーリーは異様に昂ぶった。獣と化した彼は乳房にかぶりつく。絶叫。混乱。映画館は一瞬にして修羅場となった。



少女の下腹部に血の歯型が…

ノーマンは、ある日冷蔵庫の生肉を見て異常に興奮する自分に慄然とした。その日、めつかり女っぽくなった隣家の少女メアリーに言い寄られた彼は、彼女のムツチリとした太モモを見るや狂気の眼を輝かせた。思わず下腹部に顔をう



ずめむしゃぶりつくノーマン。彼は力の限りにメアリーのふくよかなそれに喰らいつき、つばみまで噛んだ！ 後にはむごたらしい歯形がくつきりと浮かび上がった。

喰るドリル、飛びだす腸、砕ける人骨！

もはや街は血に染まっていた。警察署といわず、病院といわず、あらゆる所で食人鬼のエジキとして血祭りに上げられ、やがて自らも人肉を求め歩く住民たち。ますます狂暴となったチャーリーが、エモノの「調理」をしている。鋭利なドリルが非情な唸りを上げる。鈍い音と共に腹にくいこむドリル。



凄絶な銃撃戦、ドテツ腹に風穴が！

警官隊と食人鬼軍団の全面対決が始まった。路上から下水道へと凄まじい銃撃戦が展開する。ついに、チャーリーも腹を撃ち抜かれてしまった。あまりの至近距離から弾をくらった彼の腹はぶち抜かれ、風穴の向こうに狙撃手の眼が光っていた。ノーマンだけは脱出したが、食人鬼にな

ってしまった悲しみに、自宅で軍服に身をつつみ、妻を道づれに自害した。しかし、全てが終わったわけではなかった……。

「ゾンビ」「サンゲリア」とエスカレートの一途をたどっているイタリア残酷映画が、ついに、ここにその頂点を極めた。その名は「地獄の謝肉祭」。ベトナムの戦場でカニバリズム(人肉嗜好)にとりつかれた二人の兵士が復員後、人肉の「味」が忘れられずに、大都会でおいしそうな人肉を求めてさまよう。次から次へと展開するおぞましい地獄絵図。もはやその残酷度は常識を圧倒し、映画を

今、残酷映画は頂点に！

超えて  
しまった。